

共同礼拝

2024年8月18日(日) 午前10時30分
午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 佐藤裕子 大澤葉子(夕)

前 奏

招 詞 詩 編 90編1b～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

ダニエル書 12章9～13節 (旧1401)

マタイによる福音書24章15～31節
(新47)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 172

説 教 「滅びを逃れて」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 304

献 金

頌 栄 543

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

8月の祈り

戦争の狂気と悲惨を忘れることなく、主のみ心を求め、平和の実現をたゆむことなく祈り続けることができるように。

暴力、虐待、搾取、差別を乗り越えるための道を求め、実現への知恵がもたらされるように。

全ての者が平和こそ人の道であることに目を向けることができるように。

戦火や災害に弱る人々が力づけられるように。

今日の祈り

戦争と災害、世の不安の中で、惑わされずに、主イエスを見上げて歩む生き方が導かれるように。

主の死によらなければ救われることのない人の罪の深さを認め、主の憐みと慈しみに頼り、救いに歩むことができるように。

戦争の愚かさ、残忍さ、虚しさを知り、利用しようとする思いが砕かれるように。戦闘と紛争が一刻も早く止み平和がもたらされるよう

暑さの中、高齢の兄弟姉妹が支えられるように。

「滅びを逃れて」 高橋和人

マタイによる福音書24章1～14節

主イエスはエルサレムの崩壊に続けて、特別な苦難の時を迎えることを語られた。小黙示録と呼ばれる。「黙示」は啓示する、おおいをとるという意味になる。人の見えるところでは及ばない神の隠された御心をおおいをとるように示す。ダニエル書とヨハネの黙示録が代表的。他にも黙示が載せられている。黙示は苦難と絶望の時に希望を与え、不安に信頼を与え、慰めと忍耐を与えた。

黙示は、神が特別な人物を通して示される。

主イエスは終わりの時の様子をこう語られる。「預言者ダニエルの言った憎むべき破壊者が、聖なる場所に立つのを見たら一読者は悟れ一、そのとき、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。」(15,16)。これはエルサレム神殿の苦難の歴史を背景にしていると言われる。しかしこれはそのことに限定されない。

8月15日に79回目の敗戦の日を迎えた。当時の教会の礼拝では国民禮儀が強制された。礼拝の最初に宮城遥拝が入れられた。解散を命じられた教会、牧師、信徒が投獄され犠牲となった教会がある。遠い過去ではない。

主は「逃げなさい」と教えられた。留まるのでも戦うのでもなく、逃げる決断を教えられる。自分と信仰を守るために。主は選ばれた者のために、その期間を縮めてくださる。選びは忍耐を与える。

主御自身は逃げることなく、戦い、その結果を受け入れられた。それが真のメシアのお姿だ。

荒野のメシアは人心を集める。部屋のメシアは権力者、どちらにも利に敏いはげ鷹が群がる。主の言葉によって、聞き分け、落ち着いて見極めることが必要だ。

苦難の日々の後、暗黒に覆われる。光を以て始まった世界が光を失う。すべてが闇と無に失われるとき人の子が到来する。選ばれた人が集められる。

この選びはふさわしいからではない。主は幼子、罪人、異邦人を招かれた。選びは救いがただ恵みによることを明らかにする。選びの主体は主。選ばれた者はふさわしくないことを知らねばならぬ。なぜなら、主は罪人を選ばれた故にご自分を捨てられた。そこに救われた根拠がある。